

【MedTec Forum】 医療科学主専攻学生の進学と就職について(1)

浦山 修 (人間総合科学研究科・病態制御医学専攻/臨床医学系)

皆さんには、将来、医学・医療の専門家として大いに活躍して欲しい。卒業後どのような道があるのか、少し早かったかもしれませんが、一期生のクラス担任となった日から、進学と就職に関する情報を収集するようになりました。

その中で、「一生の仕事とは何か」を改めて考えています。

「仕事」を「タスク」と「ミッション」に分けてみましょう。タスクは日常業務的なもので、責任感を伴います。一方、ミッションは任務あるいは使命と訳しています。“ミッション・インポシブル”という映画を思い出してください。「やらなければならないこと」あるいは「やってみたいこと」と、簡単に言い換えてもよいかもしれません。

医学・医療に関わる仕事は、この使命感を伴うものが多いのです。医療の専門家としてあるべき姿を、欧米の医師憲章を参考に考えてみました。一つ、プロとして能力・適性を養い、その維持を図る。二つ、患者の利益を優先する。各種医療情報を提供する、患者の秘密を守る、また患者を差別しないことなどが大事な点かと思えます。三つ、プロとして社会に助言しなければならない時があります。それには責任を負わなければなりません。四つ、医療の質の向上と科学としての医学の進歩に貢献する。特に、第三と第四は使命感なしでは難しい仕事と言えるでしょう。

本題に入ります。皆さんの卒業後の進路を予想してみました(スライド1)。まず、卒業後、臨床検査技師として病院検査部や検査センターに就職するコースがあります。その他、製薬や食品関連の企業への就職、さらには公務員として食品や環境保全関係への就職があります。次に、他の医療系学校で学び、2つめの資格を取得し、就職するコースも考えられます。このように、皆さんは「技術職」として活躍することになります。

一方、大学院(修士)に進学するコースがあります。最近、理系では修士課程を終えてから就職するのが一般的になりつつあると聞きました。修士課程を修了して博士課程にさらに進学する人たちは、「研究・教育職」を目指すことになります。

もちろん、いったん就職しても、大学に戻って大学院で学ぶ道もあります。

大学院について、本学を例に説明します。現在、医学関係には2つの大学院組織があります。一つは2年制の「医科学研究科」すなわち修士課程で、もう一つは原則5年の博士課程である「人間総合科学研究科」です。一期生の皆さんが卒業する頃には、医科学研究科が「フロンティア医科学専攻」として人間総合科学研究科に組み込まれ、大学院組織が整備される予定になっています(スライド2)。

そこで、卒業時にはいくつかの選択が考えられます。第一は、臨床検査技師の資格を活かして就職する。第二は、他の医療系学校に進学するかあるいは他大学の大学院に進学する。第三は、本学の大学院に進学する。これにはさらに二つの選択があって、一つはフロンティア医科学専攻(2年)への入学、もう一つは5年一貫性の博士課程の前期課程(2年)への入学です。5年一貫性の課程には、ヒューマンケア学、感性認知脳科学、スポーツ医学など9つの専攻があります。フロンティア医科学専攻を終えると、3つの道があるでしょう。第一は就職です。第二は5年一貫性の後期課程(3年)への編入学、第三は4年制の医学5専攻への進学です。この課程には、先端応用医学、分子情報・生体統御医学、病態制御医学、機能制御医学、社会環境医学の5つの専攻があります。医療科学主専攻の教員は、この5専攻のいずれかに所属しています。

いずれにしても、人間総合科学研究科の各専攻では、高度な医学専門教育が行われてい

て、皆さんは“人間”をキーワードにした様々な研究に取り組むこととなります。

話題を少し変えます。臨床検査技師の4年制教育は、全国的に平成元年に始まりました。一期生の皆さんには直接の先輩がいませんが、先行する各大学のこれまでの卒業生を先輩と思ってよいと思います。東京医科歯科大学の医学部保健衛生学科検査学技術専攻の平成4年から13年までの10年間の卒業生373名の、進路調査の結果を示します(スライド3)。

病院検査部と検査センターに臨床検査技師として就職した人たちが144名(39%)、大学院の修士課程に進んだ人たちが131名(35%)でした。この中で、2年間の修士課程を終えて、博士課程に進学した人たちが41名(全体の11%)、一方病院や検査センターに就職した人たちは12名(全体の3%)だそうです。卒業時に、臨床検査技師の知識・技術を活かすことができる大学・研究機関に就職した人たちが37名(10%)、そして企業に就職した人たちは31名(8%)でした。

この東京医科歯科大学の一期生によれば、就職した人たちの中には臨床検査技師以外の資格も取得し、仕事を続けている人もかなりの数だそうです。

主な認定資格をまとめてみました(スライド4)。第一は、臨床検査技師を対象とする資格です。細胞検査士というのは別名スクリーナー、臨床検査技師の資格を取得後に細胞診の実務に1年就きさらに養成機関を卒業し、日本臨床細胞学会の認定試験に合格すると、スクリーナーとして働くことができます。長田先生の解説(本号)を参考にしてください。第二は、臨床検査技師が資格要件となる資格です。超音波検査士は、日本超音波医学会の認定によるもので、学会員として3年間の活動と認定医のもと症例150以上の経験が必要です。臨床工学技士は、国家資格で、臨床検査技師であれば養成所の1年コースを利用して受験資格が得られます。その他、健康食品管理士や糖尿病療養指導士さらには治験コーディネーター

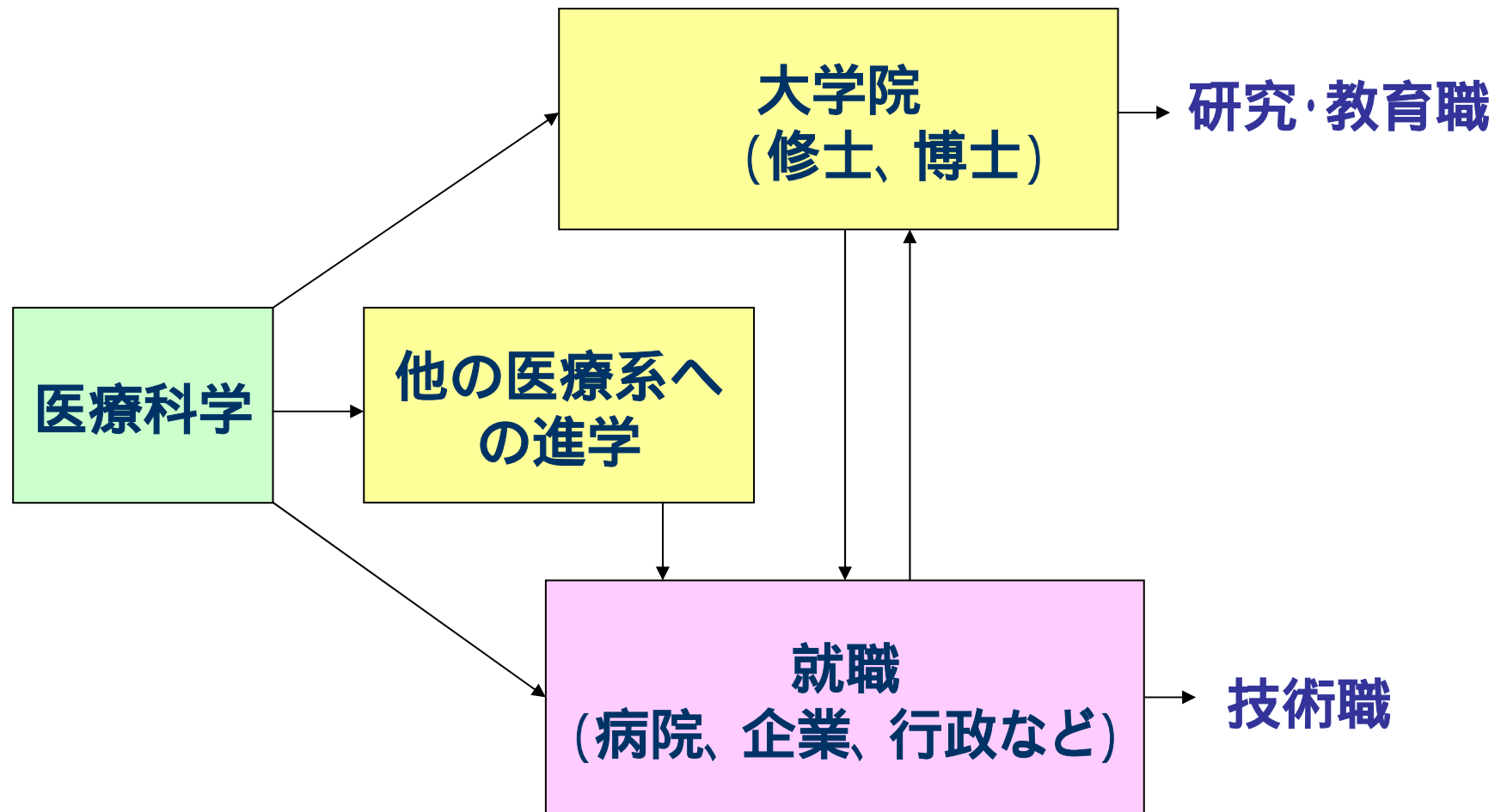
などがあります。第三に、臨床検査技師の知識・技術が活かされる資格として医療情報関係をあげられるでしょう。これから大いに期待される分野です。医療情報技師については、坂庭先生の解説(本号)を参照してください。第四は関連領域になりますが、公務員として働く食品衛生監視員や民間検査機関が始めた臭気鑑定士などがあります。ともに国家資格です。

まとめに入ります。進学や資格取得を一般にキャリア・アップと言っています。キャリアには英語力も含まれます。我われからのメッセージですが、皆さんにキャリア・アップを図って欲しい。そのように考えると、「将来に対して現在をどう生きるか」ということが大事になってきます。今、皆さんは、ひょっとしたら不安でいっぱいかもしれません。しかし、不安や悩みが大きいほど、人々を訪ねて様々のことを知り、自らを高めることができるのではないのでしょうか。

「一生の仕事とは何か」、じっくり考えてみてください。

(平成16年12月10日開催「看護・医療科学類就職進学説明会」より)

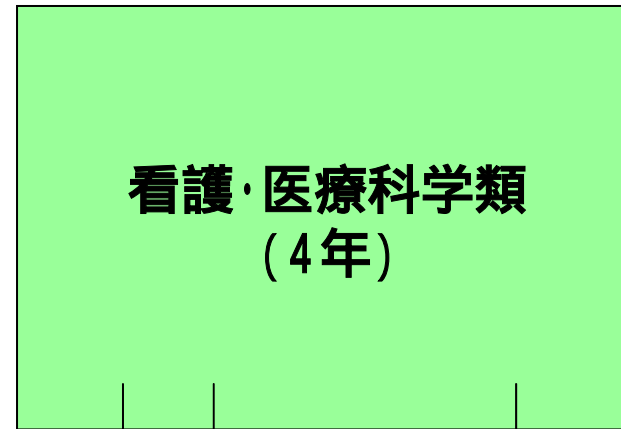
卒業後の進路(予想)



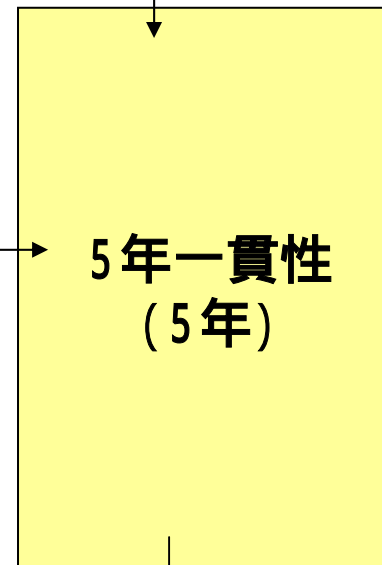
筑波大学
大学院
人間総合
科学研究
科
(将来)

就職・
他進学

就職・
他進学



医学専
門学群



人間総合
科学研究
科



研究者・教育者

卒業後の進路を先行例にみる

(東京医科歯科大学医学部保健衛生学科検査技術学専攻)

病院	131名(35%)
大学院進学(修士課程)	131名(35%)
大学・研究機関	37名(10%)
企業	31名(8%)
進路変更ほか	30名(8%)
検査センター	13名(4%)

(平成4～13年度卒業生373名の調査結果より)

認定資格

- 臨床検査技師を対象とする
細胞検査士など
- 臨床検査技師が資格要件となる
超音波検査士、臨床工学技士、
健康食品管理士、日本糖尿病療養指導士、
治験コーディネーターなど
- 臨床検査技師の知識技術が生かされる
医療情報技師、診療情報管理士など
- その他関連領域
食品衛生監視員(食品Gメン)、臭気鑑定士など